

議 案 審 議

一般会計予算や条例の一部改正などに対する質疑応答の内容を、要約して紹介します。

議案第4号 平田村課設置条例の制定について
(道の駅整備推進室の設置)

質 疑

問 三本松和美議員

これは防災道の駅ひらたの用地買収を含めた事業を本格的に進めるための課設置条例か。

答 総務課長

道の駅整備推進室は、道の駅整備に関する事項を事務分掌とし、事業を推進するために設置するもの。

再問 三本松和美議員

今の状況で、用地取得を進める前提の組織を先に設置するのは適切であるのか。

答 総務課長

事業を効率的に推進するため必要と

判断したため。

再々問 三本松和美議員

- ① 議会が議決していない解体事業を条例の所掌事務に入れる理由は。
- ② 用地確保の根拠、鑑定評価も確定しない中、用地取得を進める組織条例を先に進める理由は。

答 村長

現在の道の駅を解体するかは決まっていない。もし解体する必要がある場合はどこが所掌するのかとなるためである。

討 論

反対 関根 猛議員

村は、村民が安心して生活できる環境整備と福祉等を図ることと、村内商店、個人事業者、村内企業が事業継続し伸展できるよう支援していくことを最重要課題として、職務遂行すべきである。道の駅移転に関しては多くの村民の反対があり、無神経に道の駅の名称を用いた部署を設置することは、村民の感情を逆なでし、村政に対する信頼が更に薄れることとなるため反対する。

賛成 太田清実議員

防災道の駅に選定されたことが、平田村にとってプラスになるのかマイナスになるのか、そういった意味では設置するのは良い条例。私はプラスになると考えるので賛成する。

採決の結果、賛成6、反対5で可決しました。

議案第5号 平田村議会委員会条例の一部改正

討 論

反対 関根 猛議員

議案第4号と同様に反対する。

賛成 阿部 清議員

将来、この道の駅は50年先まで生きる、平田村の魅力活性化のために必要。5年後の完成までに、多様な業務内容となるため、新たな課が必要であると考え賛成する。

採決の結果、賛成6、反対5で可決しました。

議案第10号 平田村過疎地域持続的発展計画の策定について

質 疑

問 高橋七重議員

計画を進めるには「人」がいなければならぬ。計画実行のための、村が考える具体策は。

答 総務課長

移住・定住の促進とともに、地域おこし協力隊など地域の担い手となる人材の確保・育成を図ること。他地域の課題解決に資する動きが加速しているので、本村でも取り組みを強化したい。

再問 高橋七重議員

農業を基幹産業とするのなら、村内で作られたものを現金化する仕組みづくり、農業を通しての関係人口を増加させるために宿泊体験、空き家の整備をするなどの政策が必要と考えるが。

答 総務課長

現在働いている方への支援が必要と考える。方針に従い、事業を実施し、目的達成を目指す。

議案第17号 令和8年度一般会計
予算

質 疑

問 遠藤正彦議員

- ① 事業費概算額が議会に示されないまま基本設計業務委託費等が予算化された見解は。
- ② 旧蓬田中学校解体工事が予算化されているほか、小学校統合や消防署移転が計画されている。公債費など今後の財政見通しは。
- ③ 道の駅移転に伴い、現在の道の駅への消防署移転は決定事項か。
- ④ 資材や人件費の高騰を理由に大幅なコストアップになる場合、工事の中断や延期はあり得るか。
- ⑤ 維持管理費の増加が予想されるが、道の駅ひらたに対する指定管理料の契約期中追加はあるか。

答

- ① 基本計画を検討してきた中で、建物の規模等施設設計費に必要な条件が整理され、類似的条件を基に概算設計費として積算し、当初予算に計上した。(企画商工課長)
- ② 村債追加分について、道の駅移転再整備事業15億3千万円、統合小学

校整備事業9億6千万円、その他通常事業分として毎年2億円程度を見込んでいる。将来負担を見据え積み立てるなど、償還財源を適切に確保するとともに住民サービスを低下させることなく、納得感のあるバランスの取れた予算編成を行っていく。(総務課長)

- ③ 決定事項ではない。消防組合で移転候補地が適地と判断した場合に決定する。(総務課長)
- ④ 社会情勢変化の影響が想定しきれないが、十分に精査の上、対応したい。(企画商工課長)
- ⑤ 指定管理期間中の管理料増減は想定していない。しかし、人件費、原油価格高騰は注視しなければいけないと考える。(企画商工課長)

問 高橋七重議員

社会資本整備総合交付金事業の7,738万円、8地区分。配分率が年々減額される中、減額された場合この事業は一般財源を使って実施するの、しないのか。

答 産業建設課長

今後の事業計画、財政状況を考慮すると、道路事業は国の補助枠内での整備推進とならざるを得ないため、一般財源を充当しての事業実施は考えてい

ない。

問 高橋七重議員

現在の道の駅の不動産鑑定評価をする意味は。

答 企画商工課長

令和9年度以降の土地取得を予定しているため、本契約に向けた不動産鑑定を行うもの。

問 高橋七重議員

令和8年度から国が小学校給食費無償化を実施し、村支出の賄い材料費が浮く。この分は子育て、教育関連に使うべきでは。

答 教育課長

物価高騰の影響で、直近の賄い材料費から算出される給食単価は、国県補助では全額が賄いきれる状況ではない。よって、中学生分は村が全額負担することにより、賄い材料費の財源として充当する。なお、子育て支援として、新たに各種検定受検に係る費用補助等の支援を行う予定。

問 三本松和美議員

7,400万円の設計費は、どんな計画をもとに進めるのか。

答 企画商工課長

年度末に完了予定となる基本計画を基に設計を進める。

再問 三本松和美議員

計画ができてから予算化すべきで、順番が逆では。

答 村長

国や関係者とは必要な打ち合わせをしている。

答 副村長

正式な協議ではなく、事前の話合い段階。

再々問 三本松和美議員

現道の駅の使い方も決まっていないのに、国や県は本当に認めるのか。

答 村長

国の考えも確認しながら進めている。

関根議員修正動議

道の駅ひらたに関する再整備検討委員報償・移転再整備基本計画プロポーザル審査委員報償・基本設計業務委託料・基本設計アドバイザー委託料7,678万円を削減した額の修正案を提出。

【提出理由】

- ① 村民より、現在道の駅があるのに新しく作る必要はないとの意見が出ている。
- ② 現道の駅ひらたは築17年で、まだまだ使用できるため、防災施設や駐車場用地が必要であれば、まずは隣接地の取得交渉を行うべき。
- ③ 主に村外の人が利用する施設をつくり、道の駅に毎年多額の村の財政支出をすることは、村民重視の施策とは思われない。
- ④ 村は、村民が安心して生活できる生活環境の整備や福祉等を図ること、村内事業者、企業が継続し伸展できるように支援していくことを最重要課題として職務遂行すべき。
- ⑤ 世界情勢は混迷を極めており、資材高騰は避けられず、建設に関する支出は計画以上に増加し、財政に大きく影響する。
- ⑥ 村民の声を聴き、「道の駅ひらた移転計画」は再検討すべき。

質 疑

問 阿部 清議員

道の駅に関するすべての予算なのか。

答 関根 猛議員

道の駅の用地の鑑定評価については今後も事業するうえで役に立つものがあり、修正案には入っていない。

問 太田清実議員

① 道の駅をつくるべきではないというご意見どのくらいの方がいるか。

② 道の駅を移転するなら最低限にすべきということであるが、何割くらい予算であればよいと考えるのか。

③ 村民の重視する政策とは具体的にどのような政策か。

答 関根 猛議員

① 議会懇談会において、反対の方がかなりいた。何名かは統計を取ったわけではないのでわからないが、特に小平地区は反対が多い。

② 何割補助ではなく、今後維持費が発生してくる。建物を造るのは単年度で良いが、維持費は毎年かかってくる。

③ 道の駅利用者を見ると、主に村以外の方が利用すると考えられ、住

民福祉の向上にならないと思われる。

問 遠藤正彦議員

報償費を削ることは、現在開かれている検討委員会の休止を意味するのか。

この案は、いったん止まって考えようという意味か、または計画そのものを撤回するという意味なのか。

答 関根 猛議員

道の駅を再検討して進めるのであれば、地元の方も含めて、多くの方の委員を入れて検討すべき。

道の駅に反対なのではなく、住民が納得するような道の駅になるよう、身をよく検討してやるべき。

問 荒川英義議員

防災拠点があることで、避難地域が平田村に避難できるといふ観点から道の駅を進めるべき。道の駅の駐車場拡張が懸案であったが、防災道の駅には含まれている。

答 関根 猛議員

防災道の駅に反対ではない。駐車場が狭いなどを解消できれば、今の道の駅が有効に活用されるので、移転計画の前に用地交渉をもう一度試みては。

防災道の駅となり、避難者が来た場合、平田村の住民が対応できるのかという

討 論

ことも考えられる。

反対 上遠野広一議員

本予算は村民目線で組み健全財政である。従って修正する必要がないので反対する。

賛成 吉田喜尚議員

現在の道の駅が防災道の駅に指定されたことに便乗し、最初から移転を前提とした事業計画となっている。住民の意向を反映したものとは言えない。交付金を申請する前に再考する必要がある。よって賛成する。

反対 阿部 清議員

平田村にとっては画期的で国の支援がある魅力的な事業が完成することで、人口減をいくらかでも少なくする効果がある。また、交通渋滞の解消にもなる。子どもの遊び場が欲しいという多くの声も反映されている。道の駅が完成することで、魅力ある村となる。検討委員のメンバーの今までの努力を考えたとき、修正案には反対。

賛成 高橋七重議員

執行者だけの説明だけではゴーサインは出せない。食堂、直売所面積が広くなり、ハバネロだけでは売り場を埋めることはできない。住民が納得できる道の駅をつくるためにはきちんと議論する時間が必要。

採決の結果、修正動議に賛成7、反対4で可決しました。

修正動議とは…

議会が予算の個別の項目を対象に、増額や減額（削除）を提案するもの。今回は令和8年度一般会計予算中、道の駅ひらた移転整備関係予算合計7,678万円を削除修正しました。

議案第18号 国民健康保険特別会計予算（第7号）

質 疑

問 高橋七重議員

① 条例改正がされていないのに課税してよいのか。

② 子ども子育ての新たな税金が、なぜ健康保険料に上乗せ徴収されるのか。

③ 国保世帯で所得がある世帯は、社会保険料より負担が重い。不公平では。

答 住民課長

① 政令公布後仮の税率で条例改正を行い、6月の本算定時に税率を確定する予定。

② 子どもたちは成長し、やがて社会保障制度の担い手になることから、子どもの育みを支える支援金制度は全ての方にメリットがあると認識している。

③ 被用者保険は1人当たりの月額、国保は世帯当たりの月額とあり、夫婦と子のいる世帯で試算されている。医療保険制度ごとに公平性が保たれていると認識している。

討 論

反対 高橋七重議員

国保加入者には極めて不公平な結果になる。子ども子育て支援の財源を医療保険に上乗せすることは目的外使用であり納得できない。税率改正の条例が出されない中、保険税に賦課することは違法であり反対する。

令和8年度一般会計予算

	三本松	上遠野	吉田(喜)	関根	阿部	根本	吉田(好)	太田	高橋	遠藤	荒川	採択の果
関根猛議員提出の修正案	○	×	○	○	×	○	○	×	○	○	×	可決
修正案で可決したものの以外の原案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

○…賛成 ×…反対 ※議長は採決に加わりません。

賛成 関根 猛議員

この制度は、子ども子育て世帯を全世帯、全経済主体が支える連帯の仕組みであり、子ども子育て支援事業以外には使われないもの。少子高齢化対策として寄与する弱者にやさしい国の制度であり賛成する。

人事案件に同意

◎固定資産評価審査委員会委員

遠藤

毅氏(新・小平)

【任期】令和8年6月1日～令和11年5月31日

◎人権擁護委員

関根

猛氏(再・中倉2)

【任期】令和8年7月1日～令和11年6月30日

◎人権擁護委員

芳賀

育子氏(再・下北方)

【任期】令和8年7月1日～令和11年6月30日